

# 弁 当

## －学級活動と関連させた道徳の授業－

1 学 年 第9学年〔後期〕

2 主題名 家族愛〔4－（6）〕

3 ねらい

「伸一」が弁当と一緒に入っていた母の手紙を読んだ後、残さず食べた弁当に込めた気持ちを考えることを通して、見守ってくれる家族に対する敬愛の心情を育てる。

4 資料名 「弁当」

5 展 開

	学習活動と主な発問	生徒の反応	指導上の留意点
導 入	<p>1 手紙を書いたりもらった りした経験を話し合う。</p> <p>○ 手紙をもらったことがあ りますか。</p> <p>○ 印象に残る手紙がありま したか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ よくあるよ。</li> <li>・ ない。メールが手紙の代わり かな。</li> </ul>	<p>○ 自由な雰囲気公开发表させ る。</p>
展 開	<p>2 資料「弁当」を読んで話 し合う。</p> <p>○ 家を飛び出したときの「伸 一」はどんな気持ちでしょ う。</p> <p>○ 先輩の家からの帰り道、 「伸一」は、どんなことを 考えたのでしょうか。</p> <p>◎ 「伸一」は、めずらしく 一粒残らず食べた弁当にど んな気持ちをこめたのでし ょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分でも分かっているんだ。</li> <li>・ しつこく言うなよ。</li> <li>・ おれの気持ちなんて誰も分かっ ていない。</li> <li>・ 帰ったら叱られるだろうな。</li> <li>・ 母さんはまた、父さんに電話し てるかなあ。まずいなあ。</li> <li>・ 自分勝手な行動をとり、心配を かけてしまった。</li> <li>・ 家族が心配しているだろうな。</li> <li>・ 母への謝罪の気持ち</li> <li>・ 口では言えないけど、家族への 感謝の気持ちを伝えようとした。</li> <li>・ 自分を支えてくれる家族の気持 ちに応えたい。</li> </ul>	<p>○ 受験前の「伸一」の不安 な気持ちにしっかり共感さ せて考えさせる。</p> <p>○ 自分の中にある、甘えや わがままな気持ちにも気付 かせる。</p> <p>○ 伸一の母親の手紙の部分 を空欄にしておき、教師が 読むことによって提示する 方法も考えられる。</p> <p>○ 弁当に込めた気持ちに気 づいてくれる母と妹との関 係にも注目させる。</p>
	<p>3 家族がいてよかったなど 思う体験を話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病気やけがをしたとき、いつも より家族が優しくなる。</li> <li>・ 落ち込んだとき励ましてくれ る。</li> </ul>	<p>○ 時間をとって、しっかり 書かせ、学級全体で交流し 合うとよい。</p>
終 末	<p>4 「365日家族」という歌を 聴き、家族の思いを振り返 る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家族だからわがままを言っ てしまうことがある。</li> </ul>	<p>○ 歌詞から、家族の絆につ いて考えさせる。</p>

## 6 授業の概要

### (1) 主題について

中学生のこの時期は、自我意識が強くなり、自分の判断や意志で生きていこうとする自立心が育ってくる。そのため、父母や祖父母の言動やしつけに反抗的になりがちである。ちょっとした言葉が、自分のすべてを否定されているかのように捉え、衝動的な反応をしてしまうこともある。しかし、完全に自立ができているわけではなく、家族に対して甘えやわがままな面も見られ、アンバランスな状態が続く。だからこそ、中3の生徒にとっても親にとっても重要な受験を題材に、そのときの生徒の気持ちや親の気持ちを考えさせることによって、家族の自分に対する深い愛情に気付かせ、家族に対する敬愛の心を育てたい。

### (2) 自作資料活用のポイント

#### ア 活用する時期

この資料は、第9学年2学期後半頃の内容である。この時期は、生徒も親も不安になり、進路決定においてお互いの意見が食い違い感情的になる場面がみられることがあることから、進路決定のための懇談会前の時期に扱うとよい。

#### イ 学級活動との関連

弁当をきれいに食べることでしか感謝の気持ちを伝えることのできなかつた伸一のことを考えさせながら、義務教育を終える節目として家族に感謝の気持ちを伝える手紙を書くことの意義を考えさせ、取り組ませたい。

### (3) 指導過程の工夫

#### ア 資料提示の工夫

「伸一」の母親の手紙の部分空欄にしておき、教師が読むことによって提示する方法も考えられる。また、資料の最後の部分、手紙を読み終えた以降も空欄にしておき、「伸一」の行動を問い、その時の気持ち考えさせてもよい。

#### イ 終末の工夫

あらかじめ、保護者からの手紙を用意しておき、学級の生徒全員に配り読ませる方法も考えられる。この場合は、全員の子どもたちに保護者からの手紙が届くように十分配慮することが必要である。

#### ウ 中心発問例

主人公の心の変容が行動に出ている場面なので、「『伸一』は、母の手紙を読んだ後、どんな気持ちだったでしょう。」や「机の引き出しにしまいこんでいた進路希望調査表を広げたとき、『伸一』はどんな気持ちだったのでしょうか。」といった中心発問も考えられる。

#### エ 終末の工夫

本時の展開では、家族をテーマに作られた歌を流し、オープンエンドにし余韻をもたせた終わり方をした。しかし、生徒の実態に合わせながら、メロディだけを流し、教師が家族に対する思いを語ったり、「心のノート」(P.112~P.115)を活用したりする工夫も考えられる。なお、歌は本資料に合わせると、普段の何気ない家族の情景を歌ったものが望ましい。「マイホーム」「マル・マル・モリ・モリ！」等、生徒がよく耳にしている曲を使用することで、本時の授業を印象付けるものになる。

#### 執筆者より

学級活動との関連により、卒業前に家族に感謝の手紙を書く活動を通して、さらに家族の自分に対する深い愛情や自分の家族への敬愛の気持ちを深めさせたい。

(昭和北中学校 上 仁和)